


インフォメーション・コーナー



会 告

| | |
|--|----|
| 平成 21 年度農業農村工学会大会講演会（つくば大会）の 企業展示および広告掲載申込みについて | 80 |
| 平成 21 年度「研究グループ」の助成金募集について | 80 |
| 平成 21 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について | 81 |
| 「水土の知（農業農村工学会誌）」読者の氏名公表とご協力のお礼 | 81 |
| 「農業農村工学会論文集」読者の氏名公表とご協力のお礼 | 82 |
| 土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「頭首工」発行のお知らせ（再）..... | 83 |
| 平成 21 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について（再） | 84 |
| 学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!! | 84 |
| 「農業農村工学会学術基金」の募金について | 85 |
| 農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのごお願い | 85 |
| 身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! | |
| 「水土の知（農業農村工学会誌）」平成 22 年春季の表紙写真の募集 | 85 |
| 「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！ | 86 |
| 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のごお願いと国際ジャーナル 「Paddy and Water Environment」について | 87 |
| 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のごお願いと 2009 年 1 月から 2011 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ | 88 |
| 80 周年記念行事 京都支部「ニューフロンティア」プロジェクト選考結果報告 | 89 |
| 農業農村工学会論文集第 260 号内容紹介 | 90 |
| 学会記事 | 93 |

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちいたしております。

 のマークは、技術者継続教育認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

| 開催日 | 主催 | 行事名 | テーマ | 開催場所 | 掲載号 |
|------------------------|----------|---|-----------------------|------|-----------------------|
| 平成 21 年 8 月 4 ~ 6 日 | 大会運営委員会 | 平成 21 年農業農村工学会大会講演会  | | つくば市 | 76 巻 12 号 77 巻 3 号 |
| 平成 21 年 9 月 3, 4 日 | 畑地整備研究部会 | 第 47 回畑地灌漑研究集会  | 地域の特徴を活かした畑地 農業の展開 | 岐阜県内 | 77 巻 3 号 |

第 77 巻第 5 号予定

展望：宝の都（くに）・大崎をめざして：伊藤康志

小特集：地域色豊かな自治体の独自事業

地方自治体による独自事業創設を誘引する構造についての概念的分析 滋賀県を事例として：荘林幹太郎

いしかわ森林環境税、森林整備と過疎地の雇用創出：丸山利輔ほか

山形らしい農業・農村施策の展開を目指して：矢口 正ほか

府民協働による遊休農地解消の取組み：小谷正浩ほか

地域づくりコーディネーター育成プログラム 茨城県常陸太田市「わがまち地元学事業」の事例から：福与徳文ほか

技術リポート

北海道支部：ヨシ瀧床人工湿地による搾乳牛舎排水の浄化処理：加藤邦彦ほか

東北支部：会津地方山間部におけるため池整備について：赤塚康志ほか

関東支部：安曇野市穂高における床固めカスケード方式溪流取水工：赤羽昭彦ほか

京都支部：ウレタン樹脂吹付け工法による地盤沈下地域の水路補修：牛草幸矢

中国四国支部：香川県における環境との調和に配慮した事業実施の取組みについて：亀井正知

九州支部：前田用水路における既製管挿入工法による隧道改修：温水浩太

小講座：永久凍土の変動：原田鉦一郎

私のビジョン：宮城の農業農村整備と農業技術の普及の間で思うこと：冠 秀昭

平成 21 年度農業農村工学会大会講演会（つくば大会）の企業展示および広告掲載申込みについて

平成 21 年度農業農村工学会大会講演会事務局

平成 21 年 8 月 4 日（火）、5 日（水）、6 日（木）の 3 日間、つくば市の筑波大学大会館で開催されます平成 21 年度農業農村工学会大会講演会において、企業展示を行います。展示を希望される企業は、下記要領によりお申し込み下さい。

1. 企業展示（展示会場）

筑波大学筑波キャンパス（大会館内ホワイエ）
具体的な場所や条件はお問い合わせ下さい。

2. 広告掲載

大会講演会概要集に掲載（B5 判モノクロ印刷）
概要集は大会参加者全員に配布

3. 出展料

| | |
|-------------------|----------|
| 広告 1 ページ | 60,000 円 |
| 広告 1/2 ページ | 30,000 円 |
| 企業展示 | 30,000 円 |
| 広告 1 ページ + 企業展示 | 80,000 円 |
| 広告 1/2 ページ + 企業展示 | 50,000 円 |

4. 申込方法

(1) 申込手順（a b c d）

- a（貴社） 所定の申込用紙（学会ホームページの「新着情報」に掲載）と(2)展示概要（任意様式）を送付（郵送、E-mail 等）
- b（事務局）申込み受付後、貴社へ請求書発送
- c（貴社） 振込み
- d（事務局）領収書および広告掲載紙を発送（完了）

(2) 展示概要 展示する内容および必要物品等（要電源、

机、イス等）、希望事項（屋内スペースで m²、屋外スペースで m² 等）等を任意様式で作成・提出して下さい。

(3) 申込期限 平成 21 年 7 月 31 日（金）まで

(4) 振込先

- ・金融機関：ゆうちょ銀行
- ・店 名：〇六八（読み：ゼロロクハチ）
- ・店 番：068
- ・預金種目：普通預金
- ・記 号：10690
- ・口座番号：4158868
- ・口座名義：平成 21 年度農業農村工学会大会講演会
（ヘイセイニジウイチネンドノウギョウノウソン
コウガツカイトイカイコウエンカイ）

(5) 申込み・問合せ先

平成 21 年度農業農村工学会大会講演会事務局
（黒田久雄あて）

〒300 0393 茨城県稲敷郡阿見町中央 3 21 1
茨城大学農学部内

TEL&FAX 029 888 8602

E-mail : kuroda@mx.ibaraki.ac.jp

（問合せは、できるだけ E-mail でお願いします。）

併せて、大会参加申込みの受付をしています。

詳しくは、学会誌（水土の知）3 月号または農業農村工学会のホームページをご覧ください。

平成 21 年度「研究グループ」の助成金募集について

研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則 1 件 20 万円程度、3 件以内です。

本年度の申請締切は、平成 21 年 6 月 30 日（火）ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式（学会 HP 参照）で研究委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。

2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。

3. 配布：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。

4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であるこ

と。

(ハ)「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

(ニ)「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に40歳未満であること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究グループ」は助成金

配布後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注1 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり1~2ページに収まるようにまとめること。

注2)「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

平成21年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は60万円程度(平成20年度、原則1件20万円以内)です。

本年度の申請締切は平成21年9月18日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容(申請の意義、準備の状況、将来の展望など)を検討して、助成金の配布グループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。

4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。

(イ)具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ)「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員(本学会員以外も可)は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成21年9月18日

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長宛

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG名(または部会名)
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

「水土の知(農業農村工学会誌)」読者の氏名公表とご協力のお礼

農業農村工学会誌編集委員会

農業農村工学会誌は、昭和4年の学会創立とともに、農業土木研究として刊行され、以来、戦中の一時期を除き、多くの方々のご協力により発行を続けてまいりました。

とりわけ、読者の方々には多大なるご協力をいただき、感謝申し上げます。

農業農村工学会誌編集委員会では、読者への感謝の意を表すべく、平成11年度から氏名を公表(五十音順・敬称略)させていただくことといたしました。

ここに、平成20年4月から平成21年3月までの期間に、閲読いただきました方の氏名を公表させていただきます。

この一年間に学会誌の内容充実にご協力，貢献いただきました。ここに，お名前を記し，貢献への証しとさせていただきます。

今後とも，ご支援ご協力を賜りますよう，お願い申し上げます。

| | | | | |
|--------|---------|--------|--------|-------|
| 合崎 英男 | 鹿嶋 弘律 | 近藤 文義 | 塚本 康貴 | 姫野 靖彦 |
| 粟生田 忠雄 | 柏木 淳一 | 笹田 勝寛 | 辻 修 | 藤川 智紀 |
| 有田 博之 | 金木 亮一 | 嶋 栄吉 | 土谷 富士夫 | 牧 東史臣 |
| 井川 範彦 | 河田 大輔 | 島田 沢彦 | 土井 和之 | 三沢 眞一 |
| 石田 聡 | 河地 利彦 | 菅沼 浩樹 | 渡嘉敷 勝 | 水谷 正一 |
| 一恩 英二 | 川中 正光 | 杉田 秀雄 | 土佐 久幸 | 翠川 恒雄 |
| 稲葉 一成 | 北川 巖 | 鈴木 伸治 | 友正 達美 | 村瀬 勝洋 |
| 岩間 憲治 | 北村 浩二 | 鈴木 哲也 | 長澤 徹明 | 森 丈久 |
| 大上 博基 | 北村 義信 | 鈴木 将英 | 中里 靖 | 藪田 和也 |
| 大久保 博 | 桐 博英 | 清野 俊一 | 中田 摂子 | 藪田 徳章 |
| 大槻 恭一 | 工藤 庸介 | 瀬戸 太郎 | 中司 昇吾 | 山岡 和純 |
| 岡澤 宏 | 國安 法夫 | 千賀 裕太郎 | 中辻 敏朗 | 山岡 賢 |
| 岡島 賢治 | 久保田 富次郎 | 田頭 秀和 | 中村 和正 | 吉田 貢士 |
| 小川 茂男 | 黒田 清一郎 | 高須賀 俊之 | 中村 好男 | 吉永 安俊 |
| 桶谷 恒 | 小泉 健 | 竹内 康 | 中矢 哲郎 | 渡邊 紹裕 |
| 小谷 廣通 | 小林 久 | 田村 孝浩 | 野本 健 | 渡邊 昌夫 |
| 角道 弘文 | 小林 幹佳 | 千葉 克己 | 樋口 清司 | 渡部 邦夫 |

「農業農村工学会論文集」読者の氏名公表とご協力のお礼

農業農村工学会論文集編集委員会

農業農村工学会論文集は，昭和35年10月発行の「農業土木研究別冊1号」から教えて，平成21年4月には，通算260号を数えることとなりました。投稿される論文数も年々増加し，その分野も徐々に広がりがつあります。このような環境の中で，読者各位のご支援・ご協力によって，つつがなく259号までの刊行が可能でありましたことを，深く感謝申し上げます。

農業農村工学会論文集編集委員会では，感謝の意を表したく，平成11年度から読者を公表（五十音順・敬称略）させ

ていただくことといたしました。

ここに，平成20年4月から平成21年3月までの期間に投稿原稿を閲読いただきました読者の氏名を公表させていただきます。

この一年間，論文集に掲載されるにふさわしい内容の維持にご協力いただきまして，まことにありがとうございました。ここにお名前を記し，貢献への証しとさせていただきます。

今後ともご支援・ご協力を賜りますよう，よろしく申し上げます。

| | | | | |
|----------------|-------|--------|-------|---------|
| Giovanna Bisc- | 石黒 覚 | 大熊 一正 | 金木 亮一 | 国枝 稔 |
| ontin | 石黒 宗秀 | 大澤 和敏 | 鎌田 敏郎 | 國光 洋二 |
| ROY. K | 石田 憲治 | 大津 政康 | 唐崎 卓也 | 久保田 富次郎 |
| 合崎 英男 | 石渡 輝夫 | 大塚 悟 | 河地 利彦 | 久保寺 秀夫 |
| 芦田 敏文 | 泉 完 | 大野 研 | 川本 健 | 倉島 栄一 |
| 東 淳樹 | 一恩 英二 | 岡澤 宏 | 菊沢 正裕 | 黒田 久雄 |
| 足立 一日出 | 伊藤 健吾 | 緒方 英彦 | 岸田 潔 | 桑野 玲子 |
| 有田 博之 | 井上 京 | 沖 一雄 | 北村 邦彦 | 小池 裕子 |
| 飯田 俊彰 | 岩田 明久 | 長利 洋 | 木原 康孝 | 小出水 規行 |
| 飯塚 敦 | 上野 裕士 | 鬼束 幸樹 | 木全 卓 | 高津 文人 |
| 石井 敦 | 宇波 耕一 | 垣原 登志子 | 清澤 秀樹 | 河野 英一 |
| 石井 将幸 | 遠藤 和子 | 角道 弘文 | 桐 博英 | 甲本 達也 |
| 石川 雅也 | 大久保 博 | 加藤 亮 | 工藤 明 | 郡山 益実 |

| | | | | |
|--------|--------|--------|---------|---------|
| 古賀 潔 | 下 辺 悟 | 長澤 徹明 | 藤 咲 雅明 | 望 月 和博 |
| 小杉 堅一朗 | 白谷 栄作 | 中園 健文 | 藤 巻 晴行 | 望 月 秀俊 |
| 小高 猛司 | 神宮 字 寛 | 仲 谷 淳 | 藤 森 新作 | 森 淳 |
| 小林 晃 | 杉浦 未希子 | 長野 宇規 | 藤 原 拓 | 森 充広 |
| 小林 孝一 | 杉戸 智子 | 中野 政詩 | 藤 原 正幸 | 森 井 俊広 |
| 小林 範之 | 鈴木 研二 | 中村 公人 | 星 川 圭介 | 盛 田 清秀 |
| 小林 久 | 鈴木 誠 | 中村 真也 | 細 山 隆夫 | 守 田 秀則 |
| 小林 政広 | 鈴木 正貴 | 中村 貴彦 | 堀 俊 和 | 諸 泉 利嗣 |
| 小林 幹佳 | 須 戸 幹 | 中村 智幸 | 堀 野 治彦 | 八 木 洋憲 |
| 小峯 秀雄 | 千賀 裕太郎 | 中 矢 哲郎 | 前 田 健一 | 矢 内 純太 |
| 小梁川 雅 | 千家 正照 | 長 束 勇 | 増 川 晋 | 山 岡 賢 |
| 小山 修平 | 宗村 広昭 | 浪 平 篤 | 増 本 隆夫 | 山 本 勝利 |
| 近 藤 正 | 高瀬 恵次 | 西村 伸一 | 松 井 宏之 | 山 本 祥一郎 |
| 近 藤 文義 | 高 橋 強 | 西村 眞一 | 松 尾 芳雄 | 山 本 忠男 |
| 齋 幸治 | 瀧本 裕士 | 西村 拓 | 松 永 恒雄 | 山 本 由紀代 |
| 斉藤 憲治 | 竹内 潤一郎 | 野 田 利弘 | 松 野 裕 | 柚 山 義人 |
| 斎藤 広隆 | 竹下 伸一 | 長谷川 雅美 | 松 本 伸介 | 吉 田 謙太郎 |
| 酒井 一人 | 武田 育郎 | 端 憲 二 | 松 本 康夫 | 吉 田 貢士 |
| 酒井 俊典 | 竹村 武士 | 服 部 俊宏 | 三 沢 眞一 | 吉 田 恒昭 |
| 坂 井 勝 | 田 殿 武雄 | 浜 口 俊雄 | 溝 口 勝 | 吉 永 育生 |
| 酒 泉 満 | 田 中 勉 | 濱 田 康治 | 嶺 田 拓也 | 吉 永 安俊 |
| 坂 田 寧代 | 田中丸 治哉 | 原 田 昌佳 | 三 原 真智人 | 吉 本 周平 |
| 作野 広和 | 谷 茂 | 治 多 伸介 | 宮 川 豊章 | 渡 辺 勝敏 |
| 佐藤 周之 | 近 森 秀高 | 東 孝 寛 | 宮 田 正史 | 渡 辺 晋生 |
| 佐藤 陽一 | 千葉 克己 | 樋 口 篤志 | 宮 本 英揮 | 渡 部 要一 |
| 嶋 栄 吉 | 取 出 伸夫 | 秀 島 好昭 | 三 輪 弑 | |
| 島 崎 昌彦 | 中 桐 貴生 | 平 松 研 | 宗 岡 寿美 | |
| 島 田 正志 | 長 坂 貞郎 | 藤 崎 浩幸 | 村 上 章 | |

土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「頭首工」発行のお知らせ(再)

この度、土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「頭首工」が平成 21 年 2 月 20 日に発行されましたので、お知らせいたします。

購入希望の方は、下記要領にてお申し込み下さい。

なお、主要改定内容は、次のとおりです。

「耐震設計の手引き」を踏まえた頭首工の設計における耐震設計の考え方

環境との調和に配慮

関連技術基準類の改定に係る見直し

詳しくは、本誌 pp 65~66 に改定の趣旨を掲載いたしましたので、ご参照下さい。

書 籍 名...土地改良事業計画設計基準及び運用・解説 設計「頭首工」

価 格...5,800 円(消費税内訳,送料学会負担)

規 格...A4 判 約 680 ページ

申込方法

I. 役所等で、公用として購入される場合

FAX か E-mail でお申し込み下さい。様式は問いません。

ご希望冊数,送付先住所,請求書の宛名をご記入下さい。

II. 個人,会社で購入される場合

現金書留:書籍代金と,書籍名,冊数を書いた文書をご同封下さい。

郵便振替(00160 8 47993):振替用紙の通信欄に書籍名,冊数をご記入下さい。

申 込 先

〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

(社)農業農村工学会事務局 河合あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail : maki@jsidre.or.jp

平成21年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について(再)

学術基金運営委員会

農業農村工学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施してまいりました。

平成21年度は、規程第4条(1)の「特定の分野および学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の促進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページで申請書をダウンロードして、E-mailで学会事務局までお申し込み下さい。

記

1. 援助の対象

農業農村工学会の会員(学生会員を含む)、または会員により構成されるグループ

2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与と思われる研究について援助する。
- (2) 平成21年度中(平成21年4月から22年3月)に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援

助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合は受理を条件として援助の可否について決定を行う。

- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安

1件15万円程度を限度とする。

4. 申請締切 平成21年4月30日(木)

5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出し、その原稿は学会誌に掲載される。

6. 申込み・問合せ

〒105 0004

東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3F

農業農村工学会 学術基金運営委員会

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail: suido@jsidre.or.jp

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

行事企画委員会

技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成18年11月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間10CPDポイント、また、通信教育で最大年間18CPDポイント取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつCPD機構会員の方は、農業農村工学会のホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)にある参加申込書に必要事項を記載してメール(E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp)あるいはFAX(03 5777 2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>)に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 事務局

機構の運営委員会内部に設置する部会および継続教育部が担当します。(☎03 5777 2098)

4. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に送信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1CPDポイント、満点で15CPDポイントが取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成20年度までに49件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い

災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、「農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害」、「学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害」に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方は事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿（2年毎更新）に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は、以

下のとおりです。

調査団の候補者は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員とする。

派遣する調査団員は、候補者名簿の中から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2～3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する（年度予算限度額300万円）。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局 FAX 03 3435 8494、E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申し込み下さい。様式は農業農村工学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）よりダウンロードして下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取り扱います。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!

「水土の知（農業農村工学会誌）」平成22年春季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成22年も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。

趣 旨

わが国は急峻な地形であることや水田稲作が発達したことに起因して、水を制する、水を利用するための土木的施設が数多く造られてきました。それら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、今も過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えています。また、それぞれの

機能を発揮するとともに、年月を重ねることでその地域の自然や文化にとけ込み、その景観を構成する要素として不可欠なものもあります。それが大規模プロジェクトで建設されたものでなくとも、私たちが調査・研究・事業の対象としている農村地域には、規模に違いこそあれ立派に機能美と景観美を放つものが存在します。

農業・農村の現場で活躍される皆さま、日頃何気なく見過ごしているかもしれない水利遺構とそれを含む景観の美しさを再

評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録いただき、広く学会員にご紹介下さい。特に今回は、「春」が感じられる「水利遺構」の写真を募集いたします。

記

1. テーマ

「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」
(昨年と同様)

2. 対象巻号

学会誌第78巻4~6号(平成22年4~6月号)

3. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定)撮影して下さい(サイズは六ツ切)。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切

平成21年6月30日(春季の写真)

6. 審査

審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第78巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成22年度大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金(1点につき3万円)をお支払いします。また、応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History (表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History (表紙

写真由来)」をご執筆頂きます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用权

採用作品の使用权は(社)農業農村工学会に属します。

11. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意下さい。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)、また、デジタル画像の場合は表紙に拡大したときにドット崩れしない十分な解像度があること、が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより 応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ等)、対象物の固有名詞(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明)を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却しません。

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業農村工学会

農業農村工学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail : suido@jsidre.or.jp

「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!

学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌77,78巻の小特集のテーマ

| 小 特 集 テ ー マ | 要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内) | 原 稿 締 切 (刷上り 4ページ厳守) |
|--|------------------------------|----------------------------|
| 77巻 5号 地域色豊かな自治体の独自事業 | 公募終了 | |
| 6号 霞ヶ浦周辺と利根川下流域の農業農村(仮) | 公募なし | |
| 7号 平成20(2008)年岩手・宮城内陸地震による農地・農業用施設の被害報告(仮) | 公募なし | 平成21年4月15日 |
| 8号 食料自給率向上に向けた農業農村工学技術(仮) | 公募終了 | 平成21年4月30日 |
| 9号 地域バイオマスの利活用(仮) | 平成21年4月15日 | 平成21年5月29日 |
| 10号 学会創立80周年記念企画(仮) | 公募なし | 平成21年6月30日 |
| 11号 農業用排水施設等の(大規模)災害に対する備えと、被災時の復旧工法と支援について(仮) | 平成21年6月15日 | 平成21年7月31日 |
| 12号 地域資源としての小規模灌漑施設のマネジメント(仮) | 平成21年7月15日 | 平成21年8月31日 |
| 78巻 1号 鳥獣害被害の状況と対応策(仮) | 平成21年8月14日 | 平成21年9月30日 |
| 2号 農業水利施設におけるリスクマネジメントの取組み(仮) | 平成21年9月15日 | 平成21年10月30日 |

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、**刷上り4ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

77巻9号テーマ「地域バイオマスの利活用」

多様な地域バイオマスの利活用推進に向けた農業農村工学の貢献」

農業は自然エネルギーと物質循環を利用して資源を生産できる数少ない産業である。わが国の農業を基軸とする産業では、食料自給率向上とともにエネルギーや資源の自給率向上を目指す必要がある。そのため、農林水産業や食品産業などから排出される家畜排せつ物やワラ類の作物残さ、木質材、食品生ゴミなど、多様な形態で存在する動植物由来の有機性資源をカスケード的に利活用して多様なエネルギーや資源の原料とする具体的な技術開発と実用化が期待される。

バイオマスの利活用には、生産・収集から変換、利用に至るまで、多様な要素がある。すなわち、農業生産面から農村の合意形成までの農業農村研究分野を基軸に、システム工学分野、社会システムや経済の社会科学分野、バイオテクノロジーなどの先端技術分野との連携、産学官による協力など、各要素が一

ます。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E mail : henshu@jsidre.or.jp

体となり取り組む必要がある。バイオマスの利活用による農業や農村、産業の振興のためには、これらの分野とのマッチングの実現が重用である。

多様な分野との連携において、地域性のあるバイオマスを生み出す農業と農村活動の両面を基軸にもつ農業農村工学分野への期待と役割は大きい。そのため、バイオマスの利活用にあたっては、多様な分野との連携を農業農村整備事業などの制度を活用して図り、農村地域からのバイオマスを持続的に利活用できる技術の導入やシステムづくりが不可欠である。

本特集では、バイオマス利活用の中核となる農業農村工学分野を基本として、国内におけるバイオマス利活用の技術開発と具体的な取組み事例、施策の推進方向やバイオマス利用が成立する社会システムなどに焦点をあてた報文を広く募集します。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」、また、会員が薦める書籍などを紹介するコーナーとして、「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・

「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるもの。

原稿の長さは、**刷上り2ページ**(4,000字程度)で、写真を1~2枚程度入れて下さい。

私の薦める本は、「書籍」・「その他の著作物」など。原稿の長さは写真等を含め**刷上り1ページ以内**(1,200字)で、原稿には表紙の写真を含めて下さい。

奮ってご投稿下さい。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお祝いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会(International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2009年3月末にVol.7, No.1が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっております。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動物植物の生態系)
- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)

⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)

⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)

⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 年4回無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500円/年/4冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業農村工学会編集出版部 馬目あて

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込は, 学会ホームページ <http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm> の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたは FAX でお申し込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は, 機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊, 2009年3月末に Vol.7, No.1 が発刊されました。

わが国においても学術誌の評価に, SCi (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており, 本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また, 世界13カ国から Editor (14名) を選出することにより, 国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし, さらに国際的な流通を考慮して, 国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は, Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに, SCI 獲得のために年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが, 投稿料, 掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2009年1月から2011年12月までの編集事務局 (投稿先) は, 台湾になります。

投稿先: Yu-Pin Lin, Ph. D., Professor

Department of Bioenvironmental Systems Engineering National Taiwan University

No.1, Sec.4 Roosevelt Road, Taipei, 10617 Taiwan (R. O. C.)

E-mail: yplin@ntu.edu.tw

TEL: +8862 2 3366 3467

FAX: +8862 2 2363 5854

(During Jan. 2009 to Dec. 2011)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は, 水田農業地帯における灌漑と排水, 土壌保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等 である。

編集体制

• Editor in Chief: Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

Professor Emeritus, Kyushu University, Japan

• Editors 13カ国から14名

• Editing Board 32名

• Managing Editors

Chief Managing Editor: Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Prof. Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN) Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社: Springer Verlag 社 (ドイツ)

投稿資格: 筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等: <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載していません。

80周年記念行事 京都支部「ニューフロンティア」プロジェクト選考結果報告

農業農村工学会京都支部常任幹事会にて選考を重ねました結果、「ニューフロンティア」プロジェクトとして、以下の3課題が選定されました。

組織：京都大学大学院農学研究科
 構成メンバー：森本英嗣・山下良平
 補助額：80,000円

助成課題1

課題名：魚カウンターを用いた波付き管水田魚道の性能評価
 組織：新潟大学大学院自然科学研究科
 構成メンバー：佐藤武信・斉藤敬吾
 補助額：80,000円

助成課題3

課題名：府民が支える農空間
 ～遊休農地の解消に向けての提案～
 組織：大阪府
 構成メンバー：村本康敬（北部農と緑の総合事務所）・福岡佳代子（中部農と緑の総合事務所）・中川里栄（南河内農と緑の総合事務所）

助成課題2

課題名：多基準分析を応用したバイオマス利活用の総合評価手法の開発

補助額：110,000円

（京都支部支部長 有田 博之）

農業農村工学会選書 17

機能保全における性能設計入門

（社）農業農村工学会発行

目次

第1章 性能設計の現状

- 1.1 はじめに
- 1.2 包括設計コード
- 1.3 性能設計の技術論的特徴
- 1.4 他分野の状況
- 1.5 農業・農村整備事業と性能設計
- 1.6 性能設計とストックマネジメント(マクロマネジメント)
- 1.7 補修・補強と性能規定化(ミクロマネジメント)
- 1.8 性能設計の到達点

第2章 信頼性の照査

- 2.1 施設の信頼性
- 2.2 部分安全係数法の理念と現状
- 2.3 レベル 信頼性設計法
- 2.4 レベル 信頼性設計法
- 2.5 感度係数とその意味
- 2.6 水利構造物に適した部分安全係数の値
- 2.7 開水路側壁基部の安全性に関する信頼性設計例
- 2.8 信頼性設計法の今後

第3章 安全性の照査

- 3.1 限界状態設計法の概要
- 3.2 構造物における安全性の照査

- 3.3 曲げモーメントおよび軸方向力に対する安全性の照査
- 3.4 せん断力に対する安全性の照査
- 3.5 終局限界状態の照査例

第4章 使用性の照査

- 4.1 使用限界状態の検討
- 4.2 断面力および応力度の算定法
- 4.3 曲げひび割れ発生の照査
- 4.4 曲げひび割れ幅の照査
- 4.5 ひび割れの使用限界状態の照査例
- 4.6 今後の課題

第5章 耐久性の照査

- 5.1 長期構造性能の照査
- 5.2 農業水利構造物の耐久性設計
- 5.3 性能照査型のコンクリートの配合設計
- 5.4 鉄筋コンクリート開水路の耐久性設計例

第6章 機能保全

- 6.1 農業水利施設の機能保全
- 6.2 農業水利施設の機能診断

第7章 施工および補修・補強

- 7.1 RC開水路の施工
- 7.2 RC開水路の補修・補強

A5判 約200ページ 定価4,500円（内税・送料学会負担）
 会員特価2,600円（内税・送料学会負担）
 【会員特価は、個人会員による前金購入の場合のみ適用されます】

申込先 〒105 0004 港区新橋5-34-4
 （社）農業農村工学会
 ☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494